

実施内容報告書

課題名 見て・触って・比べる 琉球列島の大地
交付番号 24014
機関名 沖縄県立博物館・美術館
氏名 館長 里井洋一 (担当 学芸員 新山 颯大)

1. 事業の目的

琉球列島は、地殻変動の中で大陸と地続きだった地域が切り離されて島々になった地域であると考えられており、世界的に見ても地質学的に特異的な地域である。列島形成に至る過程に関して今なお議論が進められている段階にある。当館では日ごろから複雑な琉球列島の地史を紹介しているが、実際の地図上における位置と地質の分布の関係を一目で学ぶことができる展示は実現できていない。更に、琉球列島の一部が沖縄県ではなく鹿児島県に属することから、大隅諸島（北琉球）の地質資料があまり収集できておらず、本州に近い島々と沖縄県の島々との間に共通性もしくは差異があるかを、実物をもって示すことが難しい状態にある。本事業により、琉球列島全体の地質の全体像を学習してもらうと共に、地質学的事象におけるスケールを感じ取ってもらう機会の創出を目的とする。

2. 事業の実施に至った経緯

2019 年から世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の拡大により、博物館における活動はデジタル技術等を活用した「実物を介さない」鑑賞方法・機会の充実が推進されてきた。しかしながら、やはり博物館における活動の根幹となるのは収集した資料であることに変わりはない。本申請の事業においては、これまで当館で収集されていない琉球列島に関連する資料の収集を軸として、「見て・触って・比べる」というテーマを掲げて、「実物を最大限活かした」体験型の展示の製作を行うことが主な特徴である。

地質学に関する内容は、主に現地での地層・岩石など、実物の観察によって多くの学びを得られる。各地域の地質の分布を地図上に示して、口頭・パネル等で各地域の特徴を説明するだけでは、初等教育～中等教育における授業とほぼ同じ内容になってしまい、博物館というモノ（資料）を扱う場ならではの特色を活かすことができない。実物資料あってこそその自然史分野では、デジタル技術の発展だけでなく、基礎的な資料の収集・展示という原点回帰的な手法は博物館において今後も持続されるべき事項である。

一般的に、普段の生活で岩石と向き合う場面は石材として人間の手によって磨かれた岩石を見る場合が多く、野外の状態を観察する機会が少ない。そこで、本申請において製作予定のハンズオン展示用岩石資料は、可能な限り野外そのまま

の岩石の質感を味わってもらうことを重要視する。特に沖縄県にはあまり分布していない火成岩の資料は、特定の地域に行かなければ見ることすらできないものであり、博物館という場でその分布を学び、実物を見て、触って学ぶことができる機会を提供することは大きな意義がある。

3. 事業の具体的実施内容及び方法

① 野外調査による岩石資料の収集

種類：火成岩（屋久島・種子島）、堆積岩（屋久島・種子島・石垣島）など

② 大型床展示物（3 m × 3 m）の委託製作

内容：琉球列島（大隅諸島～八重山諸島）の地質図

③ 「見て・触って・比べる 琉球列島の大地」展示の実施

場所：当館内（特別展示室1・2, 企画展示室）

令和6年度沖縄県立博物館・美術館企画展「琉球列島 地質・化石展」内における展示。

4. 事業の実施状況

2024年9月までに野外調査を実施し、屋久島、種子島、石垣島で岩石・化石資料を採取した。種子島産の資料はハンズオン展示に適した頑丈な資料が得られなかったため、第三章の一部としてケース内での展示を実施した。

「見て・触って・比べる 琉球列島の大地」の展示は、「琉球列島 地質・化石展」の導入部分にあたる第二章のコーナーとして設置した。大型床展示物は予定通り大隅諸島から八重山諸島までの範囲の地質図を3 m×3 mの大きさのパネル委託製作し、床展示物の周囲に琉球列島各地で収集された様々な時代・種類の頑丈な岩石類を設置した。展示室内で様子を観察したところ、地質図の上を歩きながら各島の地質の分布を確認する来館者が数多く見受けられた。会場内で来館者からの質問を直接受けることもあり、興味・関心の高い内容となっていた。沖縄県内の離島からの来館者からは、床展示物を見て、「自分の住んでいる島の地質について気にしたことはなかったが、今回初めて知ることができてよかった。そして、こんなに色々な時代の地質が分布していることは驚きだった。」といった内容のコメントを頂くこともあり、企画展の導入部分として効果的な展示として仕上げることもできた。

第三章では、沖縄島周辺から大隅諸島に続く付加体である四万十帯の内容を扱うコーナーで、新たに収集した岩石・化石類を展示した。大隅諸島の四万十帯からは、まだ沖縄県内では見つかっていない *Protovirgularia isp.* などの生痕化石を収集することができ、生痕化石の多様性に関する展示の拡充を図ることができた。

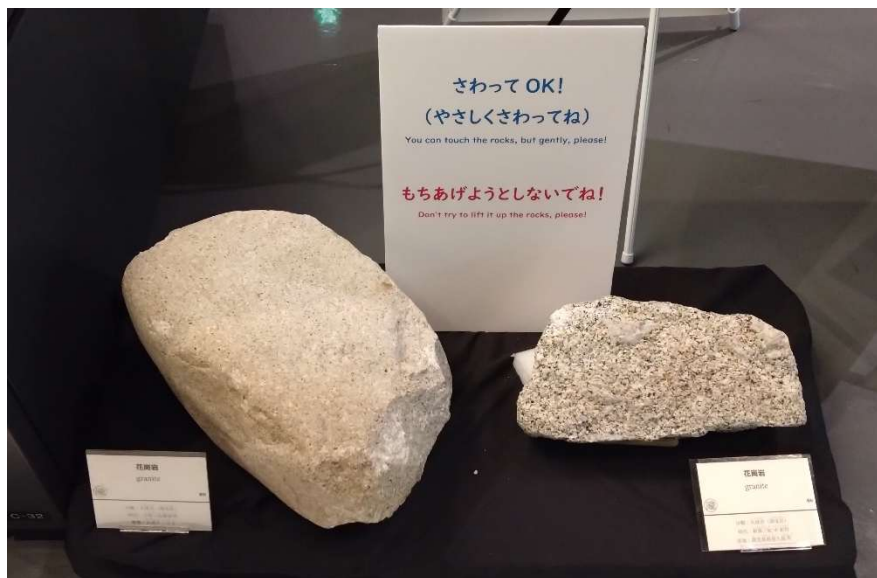
【「琉球列島 地質・化石展」での展示の様子】



第二章に設置した「見て・触って・比べる 琉球列島の大地」のコーナー



左：地質図周辺の触れる大型岩石標本、右：岩石に触れる来館者



触れる大型岩石標本

5. まとめ

「見て・触って・比べる 琉球列島の大地」の展示は、「琉球列島 地質・化石展」の導入部分として効果的な展示となった。本事業により得られた展示物・資料は、地質学に詳しくない方々にとっても琉球列島各地の地質の基本を学ぶために有用なものであり、企画展の展示の充実に寄与するものとなった。

今回の事業により制作した床展示物や収集した岩石・化石資料は、今後も琉球列島全体の地質に関する展示・教育普及活動に利用できるため、沖縄県内の離島を含む各地で展示を行う事業である移動展などで積極的に活用していきたい。

【「琉球列島 地質・化石展」についてアンケートに寄せられた感想】※一部抜粋

- ・ 普段触れないものに触れるだけで良い刺激になった。
- ・ とても興味のある内容でたのしく拝見させていただきました。化石の本物も多く展示されていたのが、良かったです。
- ・ 沖縄ならではの自然についての表示がすごく分かりやすかったです。
- ・ 過去の他の展示と比較して、大変良質な展示であったと思いました。
- ・ とても分かりやすい展示で素晴らしかったです！子供たちにも分かりやすい工夫（フリガナなど）もあり、パネルの文章も製作された方の温かい人柄や展示・来場者への想いや愛を感じました。ありがとうございました。
- ・ 今回『石』を手で触れることができ、ありがとうございました。
- ・ 地球には様々な地質や岩石があり、私たちはその一部しか知らなかった事に驚きました。同じ岩石でも色が異なることも初めて分かった。今回の企画展を通して地球の歴史を通して、人類史はとても短いと思いました。
- ・ 来年も沖縄県の地層や鉱石・岩石等の展示を行っていただきたいです。古生代の化石がもっと多く見ることができると良いなと感じました。楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ とっても素敵な展示でした。学者の方々の思いがこめられていてずっと居たかったです。また機会があれば来ます。
- ・ とても見ごたえのある内容でした。改めて地球・自然の大きさ偉大さを感じました。その過去から現在の私たちのいる琉球—沖縄にいるということ。すごく魅力的な島に住んでいるんだと…感動しました。ありがとうございました。
- ・ 地質や生物にかかわる展示が多く、いつも楽しませていただいております。パネル解説の内容も面白く、写真などで記録できる環境がとてもありがたいです。